

第 18 号

2006 年 6 月 20 日発行
編集・発行 石井甲一

〒 278-8510

千葉県野田市山崎 2641
東京理科大学薬学部内

印刷・菅原印刷(株)

ふなかわら



C O N T E N T S

1. 同窓会会長挨拶（石井甲一）	2	小茂田昌代	12
2. 総会開催案内	3	10. 同窓会だより	13
3. 名簿発行に際して	3	第5期生同期会報告	13
4. 実践社会薬学の開講	4	2005年広島地区交流会	13
5. 学部近況	5	卒業祝賀会パーティー	14
6. 東京理科大125周年について	7	12期同期会だより	14
7. 卒業生訪問	8	11. 平成17年度同窓会通常総会および講演会について	15
わが懐かしき理科大（寺脇康文）	8	12. 会計報告	15
8. 退職者挨拶	9	13. 2005年度会費納入状況報告	16
41 years in rikadai（原 博）	9	14. 氏名・住所・異動等変更届	17
チャンスをものにしよう（袴塚高志）	10	15. 会費・寄付納入者一覧	19
9. 新任の挨拶	11	16. 訃報	19
嶋田修治	11	17. 同窓会幹事一覧	20
赤木祐貴	11	18. 編集後記	20
上村直樹	12		

同窓会会長挨拶

東京理科大学薬学部同窓会会長 石井 甲一



3代目同窓会長として

小原元会長、黒崎前会長に続いて、昨年夏の同窓会総会において3代目の会長になりました石井と申します。小原さん、黒崎さんはともに1期生でしたが、いっきに11期生の会長ということになり、戸惑いもありましたが、副会長として9期の武尾さん、11期の安達さん、22期の安藤さん、23期の上村さん、そして事務局長として大学におられる石坂さんをお願いして、新しい体制で、同窓会の運営に臨むこととなりました。会員の皆さんにはどうかよろしく願いいたします。

私は理科大薬学部を卒業したのち、厚生省（当時）に就職し、以来28年5ヶ月間行政の仕事を行ってきました。その間には、製薬企業などに勤めておられる同窓生と知り合う機会も結構ありました。そのようなお付き合いもあって、同窓会の事業にも初期段階から関わってきています。

行政における私の仕事の内容は、前半は医薬品関係が中心でしたので、小原さんや黒崎さんといった企業関係の方々とのお付き合いが深かったのですが、後半の仕事は薬剤師業務に関するものが多かったため、上村さんのような薬局経営者らとのお付き合いも多くなりました。そのような意味では、行政において長年仕事が出来たことは、製薬企業、卸売販売業、薬局、食品製造業など広い分野の方々とは知り合う機会が得られ、そのいずれの分野にも理科大薬学部の同窓生がおられ、素晴らしい仕事をされていました。

平成14年8月いっばいで厚生労働省を退職し、縁あって日本薬剤師会に勤務することになりました。現在は、全国の薬剤師会の集まりに出向いて、これからの薬剤師業務のあり方などについて話し合っています。

さて、同窓会に話を戻すことにします。薬学部同窓会は、1987年の7月に発足しましたので、今年で19年目を迎えることになります。理科大には理窓会という全学部を対象とする同窓会がありますので、薬学部のみを対象とする同窓会の存在は、大学関係者からは認知されない状況でのスタートであったと聞いています。しかし、同窓会としての年数を重ねるに従って、その存在感も増してきているように思われます。同窓会は、同窓生の情報交換の場としての意義が大きいわけですが、学生を含む大学と卒業生の架け橋の役割も担っています。実践社会薬学講座という同窓会による架け橋の事業により、大学側にも同窓会に対する理解が深まり、3年ほど前からは卒業式の後の卒業記念パーティーに同窓会の役員が招待されるようになっています。

実践社会薬学講座に言及しましたので、次に同窓会の事業について自分の考えも含めて紹介することになります。

まず、実践社会薬学講座です。平成8年に第1回目を始めてから今年で11年目を迎えます。この講座は毎年土曜日を7回利用して、卒業生が学生を前にして自分の社会における経験を話してみる、という形式で継続してきました。学生が医療現場や企業の現場に赴くことが困難な状況であるならば、現場にいる卒業生が大学に赴こうという発想でした。結構人気があるそうで、出来る限り続けていこうと思っています。今年は5月20日から始まっています。

同窓会の会議は、年1回の総会と3ヵ月毎の幹事会がありますが、薬学部が野田に移転したため、会場の確保に苦勞しています。また、幹事がいない卒業年度もあり、正会員数の拡充のためにも幹事会の活性化を図る必要があると思っています。

同窓会の広報活動としては、年1回の会報「ふなかわら」の発行とホームページの運用があります。広報は大変手間のかかる事業であり、専従のスタッフがいるわけではありまないので、担当役員には苦勞をおかけしていますが、内容を今まで以上に会員にとって興味あるものにしていかなければならないと考えています。

もう一つ大変な事業があります。おおむね5年毎に発行している会員名簿の作成であります。今回は印刷物にせず、CD-ROM版としました。作業が遅れており会員の皆さんにはご迷惑をおかけしたわけですが、同窓会にとってはもっとも大事な事業だと考えています。多くの会員の皆さんに利用していただきたいと思っています。

最後に、これからの同窓会のあり方についての考えを述べたいと思います。どのような組織でも同じような悩みを持っていると思います。それは安定的な正会員の増加であります。もっとストレートに言えば同窓会収入の安定した確保策を講じるということです。会員のためにいろいろな事業を展開しようとする、そのための資金が必要です。興味ある事業を行い、それを会員に知ってもらわなければ同窓会の存在意義もありません。正会員の増加と積極的な事業展開の両立を図らなければなりません。新しい取り組みとしては、同窓会の支部活動の促進と支援だと思います。具体化のための検討を昨年度から始めていますが、実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

活発な同窓会となるよう、会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

平成18年度東京理科大学薬学部同窓会総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。なお、会場確保の都合がありますので、懇親会に参加される方は誠に申し訳ありませんが、7月8日までに12期幹事金澤（E-mail：qqe824d9@bridge.ocn.ne.jp、Fax：029-841-7932）宛に、お名前と卒業期をご連絡くださいますようお願い申し上げます。

■日 時：平成18年7月22日(土)

■場 所：インテリジェントロビー「ルコ」(軽子坂MNビル)
東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F
電話：03-3266-9311

■次 第：14：00～16：00 特別講演会

「薬学部6年制—こんなに変わる薬学教育」

元東京理科大学教授、現東京薬科大学教授 原 博 先生

(財)日本薬剤師研修センター認定(1単位)

16：00～17：00 同窓会総会

17：30～19：30 懇親会

■会 費：講演会、総会

*平成18年度同窓会会費未納の方のみ、年会費2,000円を徴収させていただきます。

懇親会 5,000円

名簿発行に際して

名簿作成委員長 武尾 勝司

東京理科大学薬学部同窓会の主要な活動の一つに5年ごとの同窓会名簿の発行があり、昨年がその年にあたりました。従来は冊子で作成いたしましたが、今回は作成コスト及び一般家庭でのパソコン普及率が非常に高い状況をふまえCD-ROM版としました。又、販売方法も予約発売とし、同時に名簿作成賛助金の協力も併わせてお願いしたところ、83名の方よりご協力を頂きました。

当初、昨年12月の発送予定で名簿作成作業を進めてまいりましたが、①振込先の銀行支店名の間違いがあったこと ②皆様からの12月以降の調査カード到着分もできるだけ対応したこと ③データの照合等が予想以上に手間取ったこと によりやっと5月に完成することができました。

今回の名簿はCD-ROM版ですので、期、卒業年度、氏名、住所(都道府県、区、市、郡)から、容易に検索が行えますので、有効にご活用いただけるのではないかと思います。

発行が遅れたことについて重ねてお詫びし、あわせて、振込に関する不手際があったにもかかわらず、多くの

方々から名簿作成賛助金の寄付をいただきましたことに感謝申し上げます。

また、これからの購入も受け付けておりますので、希望される方は以下の銀行口座に振り込みいただくとともに、同窓会事務局にご連絡願います。確認次第郵送させていただきます。

振込先銀行：三井住友銀行 日本橋東支店(店番号 034)

口座番号 普通7512567

口座名称 東京理科大学薬学部同窓会名簿委員会
(終身会員・年会費納入者-3,000円、年会費未納者-5,000円)



平成18年度「実践社会薬学」の開講

11年目をむかえた「実践社会薬学」（受講対象は2年生以上）は今年も盛りだくさんです。行政、製薬関連企業、薬局・病院の3部構成で、各々の取りまとめは安達副会長の指揮の下、磯部総一郎（22期、行政）、吉田 雅人（21期、製薬関連企業）、上村直樹（23期、薬局）、鎌田 泉（18期、病院）の4氏が務めています。大学側の担当者としては、山口稽子先生（2期）、石坂隆史（院）、そして本年から薬学部兼職勤務となった上記の上村直樹氏が新たに担当となりました。本年度は企業セクションの講義担当者を決定するのに吉田氏が梃摺っていました。企業勤務の方は話の内容に制限がかかる場合もあり、かつ、急な出張や移動、場合によっては合併や吸収で講師の確保や予定調整は大変であります。実は、薬局・病院セクションも苦勞させられます。両者とも薬剤師の勤務予定が近くならないと決定しないか

らであります。次はあなたが講師になるかもしれません。卒業生の方は、いつ話があっても対応できるように準備をお願い致します。特に来年度は、6年制が実施されて初めての2年生が講義を聴くことから、内容を大きく変える必要があるかも知れないからです。

本年度は5月20日から授業を開始致しました。出席している学生は100名前後で、最終日は7月8日です。今年は新しく加わった若い講師が多く、大学側としては大変にうれしい思いで授業に参加しています。この会報「ふなかわら」がお手元に届くまでには授業の日程が相当進んでしまっているかと思いますが、同窓生の見学は問題ありませんので、是非一度ご覧いただけたらと思います。下記の予定表を参考になさって下さい。

平成18年度 実践社会薬学講座の案内

	月 日	時 間	講師名	内 容
行政	5月20日	13:00~13:05	石井 甲一	挨拶（実践社会薬学と同窓会について）
		13:05~13:20	安達 順一	実践社会薬学オリエンテーション
		13:20~14:20	井上 祥子	薬剤師で公務員ってどんなことするの？（東京都庁の場合）
		14:20~14:30		休 憩
		14:30~15:30	磯部総一郎	薬剤師で公務員ってどんなことするの？（厚生労働省の場合）
		15:30~16:10	小林 寧	薬剤師になったら薬剤師会
企業	5月27日	13:00~13:20	安達 順一	企業の部解説
		13:20~14:05	小松 俊哉	薬を創る！—新しいくすりが出たまで—
		14:05~14:50	吉田 雅人	花咲かせ実を採る仕事—開発戦略の立案—
		14:50~15:00		休 憩
		15:00~15:45	土肥 雅彦	人体実験なんかじゃない！—新薬の臨床試験—
		15:45~16:10		質疑応答
	6月3日	13:00~13:50	藤原 良	正しいデータをチェックするガードマン—DM・統計—
		13:50~14:40	長瀬 隆弘	これであなたもゲノム博士！—期待のゲノム創薬とは—
		14:40~14:50		休 憩
		14:50~15:40	松井 信智	MR（医薬情報担当者）のここぞしか聞けない本音話
	6月10日	15:40~16:10		質疑応答
		13:00~13:50	高井 幸恵	“くすり”は“諸刃の剣”
		13:50~14:40	楠 亨	身近なで遠いクスリ—一般用医薬品とは—
		14:40~14:50		休 憩
		14:50~15:40	冨秋 英志	変革する医薬品生産現場が面白い
		15:40~16:10		質疑応答
病院 薬局	6月24日	13:00~13:45	金澤 幸江	皆さんの知らない、あっと驚く薬局の機能と役割
		13:45~14:30	徳武 用子	ドラッグストアもおもしろいぞ！
		14:30~14:40		休 憩
		14:40~15:25	伊集院一成	これからの薬局経営はどうなるのか？君たちの未来は
		15:25~16:10	熊井 佳子	「君たちにもできる薬局開設」—自分で薬局を開設してわかったこと！—
	7月1日	13:00~13:45	犬飼 陽子	在宅医療はすごいぞ！ 想像を絶する医療現場
		13:45~14:30	吉延 悦子	私という病院薬剤師について
		14:30~14:40		休 憩
		14:40~15:25	井上 美穂	薬剤師として糖尿病療養指導に携わって
		15:25~15:55	柳沢理恵子	患者の立場で糖尿病医療を見つめる
		15:55~16:20		質疑応答
	7月8日	13:00~13:40	岡田 綾佳	結核患者に対する服薬支援
		13:40~14:30	鈴木 亮子	病院薬剤師として癌に立ち向かう
		14:30~14:40		休 憩
		14:40~15:40	鎌田 泉	医療経済学入門
		15:40~16:10	〔座長〕上村 直樹	新人薬剤師との座談会
全体				澤井美里、桑原 聖、山本佳代、佐藤和樹、その他公務員など
		16:30~18:00	全員	懇談会

薬学部が変わりました

薬学部薬学科主任 鈴木 潤三

薬学教育改革について長い間議論されてきましたが、いよいよ4月から薬剤師養成教育の修業年限を6年に延長する新しい教育制度に移行しました。この教育制度改革に際し、本学では6年制の薬学科と4年制の生命創薬科学科の2学科構成を採ることになり、薬学科80名、生命創薬科学科123名の新生を迎えて新体制がスタートしました。

薬学科は“ヒューマニズムと研究心にあふれた質の高い薬剤師を養成する”ことを、また生命創薬科学科は“先端医療を支える薬学研究者・技術者を育成する”ことを教育目標に掲げています。また、東京理科大学の伝統である実力主義に立った“十分な学力を身に付けるための徹底した基礎教育”も両学科共通の教育目標です。このような教育目標を達成するためのカリキュラムは、1～3年次に学ぶ薬学の専門基礎科目のほとんどが両学科に共通で、3年以降に学ぶ専門アドバンスの共通科目を含めるとカリキュラムの約70%が両学科共通となっています。薬学科のみの科目としては、薬剤師実務に関連した薬局実習(2.5ヶ月)や病院実習(2.5ヶ月)、そのための事前実務実習などの他、医療倫理やコミュニケーション能力に係る科目などが加わったのが大きな特徴です。また、問題解決能力と研究心を養うために、5、6年次に研究室に配属され、卒業研究を行うことになっています。

薬学科では、「医療薬学実習」(病院、薬局実習のための事前実習)を修得した4年次末に、それまでに修得した必修科目の知識、技能の到達レベルが一定以上に達していることを検証する“共用試験”を受け、それに合格しなければ5年次の病院・薬局実習に入れないことになっています。共用試験は、コンピュータを用いて知識レベルを評価する“CBT”(300題、5時間)と、調剤や模擬患者を使った患者接遇など幾つかの場面設定における薬剤師としての臨床能力を評価する“OSCE”の2つの試験を実施することになっています。この共用試験は薬剤師養成に関与する全ての薬系大学が標準評価システムを共用して実施することになっており、全国の薬系大学の教員が参加してシステムの構築や問題作成などの準備作業を急ピッチで進めているところです。

生命創薬科学科では、ある程度の専門基礎知識が修得できた2年後期から、創薬科学系や生命科学系の様々な専門分野の高度な知識や技能を修得するために、分子免疫学、タンパク質化学、生体機能化学、有機合成化学などの専門科目を履修し、4年次には従来と同様に卒業研究に専念するようになっていますが、研究能力をさらに磨くために出来るだけ大学院の修士課程に進学することを勧めることにしています。

新制度への移行に伴って教員組織も大きく変わり、39名

の教員が薬学科に、17名の教員が生命創薬科学科に所属することになりました。学生定員80名の薬学科に39名もの教員が配属されていることに驚かれるかもしれませんが、これは文科省の設置基準によるもので、薬学科における“教育”の負担が如何に大きいかを示していると言えます。

以上のように理科大学薬学部は6年制の薬学科と4年制の生命創薬科学科の2学科構成でスタートしたわけですが、因みに、6年制と4年制を併設したのは、国公立の17大学全てと私立の12大学で、残り33私立大学が6年制のみの体制を採りました。また、国公立大学の内、4年制の入学定員が6年制よりも多いのは7大学のみで、他の10大学は両学科同数か6年制の入学定員の方が多くなっています。6年制と4年制を併設した私立大学の内、4年制の入学定員の方が多いのは理科大学のみで、他大学の4年制入学定員は6年制の定員の2割以下です。本学が他の薬系私立大学と明確に異なる体制を採ったのは、実力のある質の高い薬剤師を育てつつ、研究者養成という理科大薬学部の伝統と特色を生かすためにはそれが最善であると判断したからです。同窓生の皆様はこの判断をどう受け止められるでしょうか？

薬剤師の国家試験受験資格がある学部という旧制度の觀念が強いと思われる中、基本的には受験資格のない4年制の生命創薬科学科に受験生がどの程度応募してくれるかを懸念しなかったわけではありません。しかし、オープンキャンパスや予備校、高校訪問など、最大限PRに努めたこともあって、一般入試の応募者数は薬学部全体で昨年度比93%(薬学科106%、生命創薬科学科76%(製薬学科に対し))と健闘しました。予備校からの情報によると、全国の薬学志望者数が昨年に較べて3～4割減、昨年度比3～5割減の私学が多かった中で、理科大学薬学部の善戦が目立ち、学部の判断が間違っていなかったと受け止めています。しかし、続々と薬科大学が新設される中、理科大薬学部のレベルと伝統を維持して行くためには、両学科の教員が一致協力して教育・研究に取り組まなければならないと覚悟を新たにしております。

【教員所属別名簿】*括弧内は担当分野

薬学科 (YP)

青山 隆夫(薬物治療学、教授)
河上 強志(環境科学、助手)
田沼 靖一(生化学、教授)
赤木 祐貴(薬物治療学、助手)
小島 周二(放射線生命科学、教授)
玉井 郁巳(生物薬剤学、教授)
石井 賢二(臨床医薬品科学、助教授)
後藤 恵子(健康心理学、嘱託教授)

月本 光俊（放射線生命科学、助手）
石坂 隆史（情報薬学、助教授）
小茂田昌代（医療安全学、嘱託教授）
寺田 弘（薬効物理化学、嘱託教授）
伊藤 史典（薬品物理化学、助手）
佐野 明（薬品分析化学、助手）
中村 輝子（薬用植物・漢方、助教授）
岩井 孝志（薬理学、助手）
塩川 大介（生化学、助手）
中村 洋（薬品分析化学、教授）
宇留野 強（臨床薬学、教授）
嶋田 修治（医薬品評価学、助教授）
西谷 潔（分子薬学、助教授）
遠藤 次郎（薬用植物・漢方、教授）
清水 貴壽（衛生化学、助手）
芳賀 信（製剤学、教授）
太田 隆文（医薬品情報学、助教授）
鈴木 潤三（社会・情報薬学、教授）
前田 智司（生物薬剤学、助手）
岡 淳一郎（薬理学、教授）
鈴木 政雄（薬事法制学、助教授）
牧野 公子（薬品物理化学、教授）
小野寺祐夫（環境科学、教授）
鈴木真佐子（衛生化学、助手）
松岡 隆（臨床医薬品科学、講師）
海保 房夫（社会・情報薬学、助教授）

砂金 信義（医薬品安全性学、助教授）
山口 稽子（社会・情報薬学、講師）
上村 直樹（薬局管理学、嘱託教授）
武田 健（衛生化学、教授）
和田 浩志（資源植物化学、講師）

生命創薬科学科（YM）

青木 伸（生物有機化学、教授）
北村 大介（分子免疫学、教授）
早川 洋一（微生物薬品化学、教授）
安部 良（免疫学、教授）
興梠 順也（創薬ゲノム科学、助手）
深井 文雄（分子病態学、教授）
内海 文彰（遺伝子制御学、講師）
小林 進（薬品合成化学、教授）
増保 安彦（創薬ゲノム科学、教授）
内呂 拓実（創薬合成化学、助教授）
高田 陽一（生物物理化学、助手）
宮崎 智（生命情報科学、教授）
大島 広行（生物物理化学、教授）
田中 尚人（生命情報科学、助手）
山田 泰之（生物有機化学、助手）
川崎 崇（微生物薬品化学、助手）
中崎 敦夫（薬品合成化学、助手）

トピック

最近の薬剤師を巡る動向

本年4月、薬学6年制関連法が施行され、その記念すべき第1期生が入学いたしました。これから6年後には、6年制薬学部を卒業した第1期の薬剤師が誕生することとなり、医療における薬剤師の位置づけも大きく変わることが予想されます。そこで、本稿においては、先般行われた診療報酬・調剤報酬の改定、本年5月現在国会審議中の医療法、薬事法等の改正により、今後、薬剤師を巡る状況がどのように変わることとなるのかをご紹介します。

まず、診療報酬・調剤報酬の改定において、保険財政が厳しい中、後発医薬品の使用促進のための環境整備を図る観点から、処方せんの様式が変更されることとなりました。具体的には、医師の処方せんに「後発医薬品への変更について」という欄が設けられ、処方せんに先発医薬品の名称が記されている場合、当該欄に変更可として処方医の署名があれば、患者の同意のもと、薬剤師による後発医薬品への変更（いわゆる代替調剤）が可能になるというものです。

次に、医療法の改正においては、「調剤を実施する薬局」が医療提供施設として明記されました。医療法とは病院・診療所などの医療を提供する施設・体制について

の法律であり、これまで医療法には「薬剤師は医療の担い手」と位置づけられておりましたが、今後、薬局についても「医療提供施設」として位置づけられることとなります。すなわち、薬局が有している調剤機能は「医療機能」であることが法律上明確になったことが非常に画期的です。

さらに、薬事法の改正においては、一般用医薬品がそのリスクの程度に応じて3区分に分類され、特にリスクが高いもの（法律上は第一類医薬品）は薬剤師でなければ販売できないこととなります。このほか、これまで医薬品の販売に従事してきた薬局、一般販売業、薬種商販売業、配置販売業及び特例販売業の5業態が、薬局、店舗販売業及び配置販売業に再編されることとなります。

このように、薬剤師を巡る状況が、薬学教育6年制の実現を境に大きく変わり、特に薬局薬剤師の業務が医療側にシフトしていこうとしています。本年は、われわれ4年制薬学部を卒業し薬剤師の資格を取得した者にとっても、非常に喜ばしい年であるとともに、今後、薬剤師の資質が医療人として国民から試されることとなるため、新たに気を引き締めるべき年とも言えましょう。

(M.T.)

東京理科大学創立125周年にあたって

薬学部同窓会会長 石井 甲一

今年、東京理科大学は創立125周年を迎え、神楽坂キャンパスと野田キャンパスの再構築計画など、次の100年に向けて「教育」、「研究」、「貢献」三位一体の「科学技術の情熱拠点」を目指すとして記念事業を展開することとしています。

神楽坂キャンパスには2010年までに「125周年記念図書館・講堂」及び「大学会館」を建設する予定であり、都市型キャンパスの理想を目指しています。

一方、野田キャンパスには2008年までに「総合研究所棟」を薬学部入り口左側の緑地部分に建設する予定とのことで、世界の研究拠点として成長することを目指す

しています。

薬学部同窓会としても、東京理科大学の記念事業に何らかの協力をする必要と考えております。具体的な協力の方法については、記念事業のための募金活動が現在行われておりますので、薬学部同窓会としてもこれに協力することとし、4月の幹事会で決定したところであります。具体的な寄付金額については、7月の同窓会総会に諮った上で決めたいと考えております。

同窓会の会員の皆さんには是非ご理解をお願いしたいと思います。

東京理科大学創立125周年記念事業のご案内

明治14年（1881年）の東京物理学講習所創設から時を刻み始めた本学は、本年6月14日(水)に創立125周年を迎えます。これを機に、今後の東京理科大学のめざす方向を、学内はもとより広く社会にアピールしようと、現在、教職員と学生が一丸となって各種記念行事の準備を進めています。

楽しい企画が満載となっておりますので、どうぞ6月17日(土)、18日(日)は、お近くの会場にお越し下さい。

○記念学生行事

「125周年記念祭 ～Enjoy Science Life～」

3地区の特徴を全面に出した行事を学生主体で企画・運営大学の主体はあくまでも学生ということで、学生ボランティアを募り、学生主催の記念行事を実施するのが創立125周年記念事業の大きな特徴のひとつです。「125周年記念祭 ～Enjoy Science Life～」を共通テーマとする学生行事は、3つのキャンパスでそれぞれの特徴を出したイベントが企画され、教職員のサポートを受けながら鋭意準備が進められています。

神楽坂キャンパス

神楽坂の街を探検してまわる神楽坂アドベンチャー等、本学と神楽坂の商店街がコラボレーションされたエキサイティングなイベントです。

野田キャンパス

スポーツイベントやビンゴ大会、ビールパーティーでの楽しい懇談、そして最後は花火大会と初夏の1日を満喫できる企画が盛り沢山です。

久喜キャンパス

起業家、気象予報士、考古学者による講演会や、吹

奏楽の演奏にコンサート等、経営学部からの文化・教養・社会的メッセージです。

○東京理科大学サイエンスフェア

6月17日(土)、18日(日) 日本科学未来館

120年余り培ってきた建学理念「理学の普及」から、さらに未踏分野に挑む「科学技術への創成」へと向かい、あふれんばかりの「良心」で満たされるフロンティアでありたいと考えます。「サイエンスフェア」は、科学の様々な分野における東京理科大学の取り組みをご紹介します、来場される皆様と研究者のコミュニケーションの場を目指すイベントです。

サイエンスラボ ―科学技術の情熱拠点―

「物質・情報・生命、融合から創造へ」

会場：1F 催事ゾーン

本学の研究成果を物質、情報、生命、融合の4つゾーンに分けて展示します。研究者自身による解説や体験型の展示が、サイエンスの最前線へといざなってくれます。

記念講演会 テーマ ―「古代の遺跡から、宇宙まで」

会場：7F みらいCANホール

日時：6月18日(日) 13:00～

日本の宇宙開発を推進する宇宙航空研究開発機構(JAXA)の的川康宣氏と、本学理学部応用科学科出身の楠田枝里子氏を講師に招き、記念講演会を開催します。

講演：「はやぶさ・日本・未来」 的川 康宣 氏

講演：「世界遺産『ナスカの地上絵』の謎を追って」

楠田枝里子 氏

みらい研究室 ～科学へのトビラ～

会場：7F CR 1～3 イノベーションホール

本学の学生団体が企画する科学教室です、ロボットや物理実験、そして気象現象等、身近なテーマで科学が体感できる楽しい教室です。

【ご協力をお願い】

東京理科大学では、本年6月に創立125周年を迎えるにあたり、次の100年に向けて更に発展していくための基盤づくりとして、キャンパスの再構築を含む創立記念事業を展開しています。野田キャンパスの再構築は、2001年の森戸記念体育館の着工を皮切りに進められ、2003年4月の薬学部移転などの事業計画も順調に進み、あとは総合研究所棟の建設を残すのみとなりました。一方、神楽坂キャンパスでは、昨年の新5号館（化学系研究棟）の竣工に続き、本年4月には工学部が九段校舎へ移転し、いよいよ新2号館の建設準備が整ってまいりま

した。これらの一大記念事業を成功させ、世界に冠たる東京理科大学として発展し続けるために、大学としても必要資金の確保に務めております。しかし、この事業には多額の資金を必要とするため、その一部については東京理科大学を卒業された皆様方に、絶大なご支援・ご協力を仰ぐ必要があります。つきましては、本趣旨をご理解いただき、創立125周年記念事業募金にご協力いただきたくお願い申し上げます。

創立125周年記念事業募金

募集期間：2008年12月31日まで

<問い合わせ先>

東京理科大学周年募金事務局

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL：03-5228-8723

E-mail：125shunen@admin.tus.ac.jp

URL：http://www.tus.ac.jp/125/

卒業生訪問

わが懐かしき理科大

日本薬剤師会副会長 寺脇 康文（9期）



同窓会誌「ふなかわら」に寄稿できます事、大変光栄に存じます。

私は昭和43年に薬学部製薬学科に入学致しました。入学式での森田修君との出会いがその後の私の人生を決定したと言っても過言ではありません。森田君と私は両隣の席でしたが、彼が私に席をかわって貰えませんかと言ったその一言から今日まで38年間、兄弟以上の付き合いをしています。当時薬学部には薬育会というサークルがあり二人一緒に入部することになりました。（薬学を育てる会。今考えると、かなりハイテンションなサークル名です。）医薬分業の事とか、青春をいかに生きるべきとか、かなり硬派な内容を議論するサークルだった様だと思います。学園紛争も激しい頃でしたので、時の流行だったのかもしれませんが、38年前に欧米における医薬分業の実態を知ったことが、その後の私に大きな影響を与えたことは間違いありません。しかし、その恩義あるサークルも私と森田君の後は新入生の入部もなく、潰れてしまいました。今でも先輩たちに申し訳ないと思っています。

4年生になって、久保田和彦教授の薬物学教室（現薬理化学教室）に入りました。合成とか分析の部屋を選ばなかったのは薬学部でしか勉強できない教室を考えたからです。そこでまた、すばらしい人達に巡り合いました。久保田教授は当然の事ながら、宇留野強、勝原徳寛両先輩です。二人とも薬学の4期卒業生で当時助手さんでした。学問に対する基本的な考え方は勿論の事、神楽坂における酒の飲み方も教授して貰いました。久保田先生を

初めとし、今でも三人の先生方とは行き来をしております。特に勝原先生は私が卒業する頃、理科大からある製薬会社の薬理研究室長に就任されましたが、私も強引に一緒に連れて行って貰いました。その会社の薬理研究室は久保田教室出身者が殆どで、毎日理科大にいる様でとても楽しい日々でした。その会社も新薬を創薬する必要があるということで東大の高木敬次郎先生の薬品作用学教室に2年程勉強に行かせて貰いました。あの2年間で物事を組み立てて考えていく思考過程というものを学んだ様な気がします。

時の流れで勝原先生は熊本に帰り、私は鹿児島に帰って薬育会で得た知識「医薬分業」を実践することになりました。昭和51年12月のある日、前出の入学式以来の友人森田君から「君が開局するのだったら僕もそちらに行って一緒に仕事をしたい」という電話がありました。私一人でさえ生きていけるかどうか、怪しい規模の薬局でしたが、「給料は払えないかもしれないが、白い飯だけは欠かさぬように努力するから、来い！」と返事したら、1月5日には川崎からフェリーでやって来ました。彼が来てくれたお陰で、私は青少年育成事業やPTA等、社会教育活動に薬局の仕事を気にせず取り組むことができました。結果として、地域から信頼される薬局づくりに成功（自分で言うのも少し恥ずかしいのですが）したのではないかと考えています。

それから10年位して行政の後押しもあり医薬分業が進展し、30年前、私の地域では医薬分業で経営を成り立た

せているのは私の薬局一軒だけでしたが、今や私の地域でも80軒程度の薬局が開局しています。これほど医薬分業が進展するとはだれが予測できたでしょうか。

そうこうしている間に薬剤師会の組織の仕事をしないかという話が持ち上がり、最初はかなりの間渋っていました。しかし、あまりの攻勢にどうしたものかと勝原先輩に相談しましたところ、突然、塩野七生著、ローマ人の物語ⅣとⅤ、ユリウス・カエサル、ルビコン以前、ルビコン以後の2冊の本が送ってきました。当時ローマでは外国に遠征した軍勢はルビコン川の手前で解散してローマに入城する法律になっていたのですが、解散して入城すればカエサルは囚われの身となる状況にありました。また、この軍勢を維持したまま攻め上げれば内乱に陥る、ルビコン川を前にしてカエサルは悩む訳です。最終的には軍勢を率いたままルビコンを渡り、皇帝の座に就

くという話ですが、このカエサルの決断を見習って、お前も組織の役員を引き受ける決断をしろと暗に私を説得するための送本でした。

真の友人、先輩の存在は有り難いものです。自分の人生は多くの師、先輩、友人に支えられているという事を最近しみじみ思います。今回の日本薬剤師会副会長就任に際しても、多くの方々のお力をお借りしました。特に現在日本薬剤師会の役員をしている同窓の先生方、具体的に名前を挙げる訳にいきませんが感謝、感謝です。同窓とは良いものです。無条件に信じあえるからです。時に親兄弟以上に。他にも九期生千葉県池田君、同窓会幹事をしている沢地君。私の人生にはかけがえのない人達です。理科大を卒業した事に誇りを持ちながら、会員のため、組織のため、社会のために頑張りたいと思います。合 掌

定年の挨拶

41 years in rikadai

原 博



41年間理科大にいた。居らせていただいたというのが実感である。

その間、化学を楽しみ、教育に工夫と苦勞をした。ここでは教育について素直にまとめてみたい。

自分が学生の教育にどれだけ貢献できたかと、思いめぐらしてもこれというものが出てこない。赴任するや早速、有機化学の実習を担当した。約200名の学生を同時に見なければならぬ。殆どの学生が予習をしてこない。その日に何を実験するのか、どのような試薬を使うのか何もわかっていない。これでは教育効果が薄いと考へ、榊原先生に相談した。先生のアイデアで、その後、実習計画書なるものを事前に提出してもらうことにした。学生にとってはレポートがひとつ増えて大変であるけれど、実習内容の理解度は格段に良くなった。しかし、教育で新しいことを始めると、それはもろに教員のロードとなる。雑用とは言わないが、その分時間と労力が必要となる。研究との両立を考えるとジレンマであるが、教員である以上、教育方法について、常に向上させる気持ちがなくてはなるまい。

それから200名の学生の名前をとでも覚えることが出来なことに直面した。実習の評価にもつながる問題である。これについても榊原先生のアイデアで、各班(4名)毎に写真を撮って、名前を覚えることにした。その頃は実習期間が長かったので、終わる頃には全員の名前を覚えることが出来た。その後、単位制に変わり、実習期間が極めて短くなり、写真を撮ることもなくなった。結果として、一部の学生しか名前が覚えられない。

次に、有機化学演習についても記しておきたい。梅沢先生が1年生の有機化学を担当されていた時のことである。ご存知のように、飄々とした講義で一部の学生には大変好評であったが、受け身の学生の理解度に問題があった。誰がどこで、どのように決めたのかは知らない。おそらく化学系の教員の総意で演習が提案されたのだと思う。担当には、坂口講師、助手の久留、田中両先生と私が選ばれた。当初、自由参加で始めたが、出席するのは成績の良い学生が多く、本来の底上げには通じなかった。正規の選択科目に変わっても、学生の取り組みが今ひとつであり、結果的に今の方式、すなわち、演習と本試験の両方を考慮して有機化学を採点評価することになった。理想的な評価とは言えないが、学生には総じて好評のようである。以来、演習は化学系の助手を中心とした教員構成で脈々と続いてきた。1年生前期より始めるので、入学時から学習する習慣を身につけることができる。有機化学は問題を多く解くことで力がつくので、問題解決型教育を行う上で演習の効果は大である。その他に、別の面での効果もあった。それは助手の教育技法の向上であり、また、化学系の教員がいつも教育内容をお互いに知り、情報交換ができるということである。したがって、講座制から研究室制に移行しても理科大の化学系の教育には何も支障がなかった。多くの大学では未だに、薬化学と薬品製造学で化学系教育が二分されているところもあると聞く。昨年から、小テストの後に、学生に黒板に自分の解答を書いてもらうだけでなく、マイクを渡して、なぜその答えが出てきたかを説明してもらうこ

とにしている。これがまた面白い。つたないプレゼンでも良い。こちらが教えた用語を使わずに彼らの言葉で説明する。驚きである。聞いている学生も仲間がどのように問題を解いて、それをいかに説明するのかに興味津々である。正に参加型学習である。そしてこちらも学生から教えられるのである。“共育”がそこにある。

金子みすゞの詩に『わたしとことりとすず』がある。“みんな違うがみんなよい”という詩である。もちろん、みすゞは教育をうたったわけではないが、そのころは教育の根幹につながると思う。教育する側から見ると、“区別はしなくては行けないが、差別はだめだよ”に通じる。

A bell, a little bird, and me.

We're all different and all wonderful.

(Misuzu Kaneko)

教育の評価は極めて難しい。自分の思い上がりも多分にあるだろう。

いずれにしても、どうかこうして元気で定年を迎えることができた。

沢山のの人に支えられたことに心から感謝します。

そしてなによりも共に育った理科大薬学部のますますの発展を願わずにはいられない。

転出の挨拶

チャンスをものにしよう

袴塚 高志

約10年間お世話になりました東京理科大学薬学部を去り、平成18年1月より国立医薬品食品衛生研究所生薬部にて勤務しております。この間に賜った諸先生・先輩方のご指導ご鞭撻に深く感謝申し上げます。また、元学生さん方と共有した様々な形で触れ合いは大切な私の財産となりました。暖かく心地良かった環境に幸せを感じつつ、転機に際し、自らを激励する意味も含めて、元学生さんへのメッセージとして寄稿させていただきます。

私は東京大学薬学部にて学生及び職員として10年間在籍した後に理科大へ移り、そしてまた新しい職場を求めることになりましたので、合わせて2度転職したことになります。これ以外にもお話はあったのですが、その度に後悔の念と共に感じたことは、「いつチャンスが訪れても即応できるように、日頃から準備を整えておくことが大切」と言うことです。学生時代は小中高大さらには院と、制度として年限の区切りがあります。しかし、社会に出ると、どこで区切り（＝チャンス）が訪れるか予測できません。3年経ったら主任、7年経ったら係長、などと線引きがあるわけではありません。現在注力しているプロジェクトが突然中止されるかも知れませんし、やる気の起きないプロジェクトに携わっていても、別の興味あるプロジェクトに移るチャンスが急に降ってくるかも知れません。今後とも、チャンスが自分の都合に合わせて巡ってくることは減多にないでしょう。

さて、あまり認めたくない事実ではありますが、ある特定のチャンスに遭遇できる候補は、大抵の場合、自分以外にも複数居るものです。思い込みはどうであれ、自分だけにピンポイントで与えられるチャンスは実に少ないことでしょう。結局、その時点で対応できる体勢にある人へチャンスは降り注がれるのです。従って、巡って



きた転機を逃さず掴めるように、自分の将来の方向を見据えて、積極的に今の自分に投資し、日頃から地力を付けておくことが大切だと思うのです。

最後に、将来ある現・元学生さんたちへの激励と、もう一頑張りできるかも知れない私への叱咤の意味を込めて、偉大な先達の言葉を以って締めさせていただきます。

「偶然は準備のない人を助けない」 by パスツール



薬学部にむかえた新しい教員

薬学部に本年4月から多くの先生が着任されました。薬学科には6年制における教育を確かにするために、赤木、月本、河上、嶋田、上村、小茂田、後藤の各先生、また生命創薬科学科にはその研究、教育の充実のために、高田、田中、安部、北村の各先生、合計11名であります。「ふなかわら」では薬学部同窓生を中心に、その内の4人の先生に原稿をお願い致しました。(T.I.)



薬学部新任教員として

薬学部薬学科 医薬品評価学
嶋田 修治

同窓会の皆さん、はじめまして。記念すべき薬学教育6年制初年度の4月から薬学科助教授として着任いたしました、嶋田修治と申します。新入生の輝く瞳を見ると、彼らをはっきりさせてはいけない…という責任の重さをひしひしと感じています。

私は、平成3年に富山医科薬科大学を卒業し、東大病院薬剤部の研修生になりました。その後、同薬剤部に文部技官として任用され、調剤、製剤および医薬品管理業務と一通り経験しました。特に製剤室では青山先生(現理科大薬学部教授)から業務・研究面で多くのご指導を賜りました。その後、平成9年に石川島播磨重工業健康保険組合病院に異動し、薬剤部門の責任者として病院と関連診療所の業務統括を行いました。中小病院での勤務は大学病院と違った面白さがあり、さらに病院薬剤師会の仕事を通して、多くの薬剤師の方々、製薬企業の医薬品情報および学術の担当者と交流するようになりました。

我々医療人には厳しい自己研鑽が求められます。これ

は人の命を左右しかねない医薬品を扱う者の宿命です。ところが多くの方々と交流を深めるにつれ、医療人に求められる「最善の注意義務」と「水準に追いつく義務(自己研鑽)」に欠ける方々が少なからず存在し、しかも現場の第一線で業務を行っているという重大な問題点に気づきました。自己研鑽のモチベーションは、社会に出てから一朝一夕で身に付くものではありません。これは在学中からの学生の学習と教員の指導で身に付くものであると考えています。

今のままではいけない。何とかしなければ薬剤師の存在意義を国民に認めてもらえない…。病院勤務では、「医療人としての私の熱い思い？」を少しの後輩薬剤師にしか伝えることができません。ここは是非、大学で毎年まとまった数の学生に聞いてもらおうしかないと思い、教育機関への異動を決意しました。

さて私の専門は医薬品評価学で新しい学問分野です。臨床現場で問題になっている、医薬品に対するさまざまな疑問に多方面からの評価を加え、その結果を現場にフィードバックさせて行きたいと考えています。今までの薬剤師業務の経験を生かした現場に根ざした研究です。同窓会の皆様からの貴重なご意見が研究の出発点になります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。



薬学部新任教員として

赤木 祐貴(37期)

本年4月より薬物治療学教室(青山研究室)の助手として仕事をさせていただくことになりました、赤木祐貴と申します。私は東京理科大学薬学部を平成12年3月に卒業し、千葉大学大学院薬学研究科博士前期(修士)課程を修了後、研修薬剤師を経て、本年3月までは帝京大学医学部附属市原病院薬剤部にて病院薬剤師として3年7ヶ月間勤務しておりました。

病院薬剤部では主に調剤室への配属でしたが、兼務でさまざまな仕事を経験する機会があり、医薬品情報管理業務、病棟での配薬準備や服薬指導等の薬剤管理指導業務、薬学部生に対する実務実習指導、電子カルテに関するシステム管理などを行っていました。医療現場で薬剤師として働いていますと、大学時代の教育内容と臨床で

必要とされる知識との間に少なからずギャップがあり、両者の連携が具体化していないことを常々感じていました。しかし、東京理科大学では平成15年に薬学部が野田へ移転した際に医療薬学教育研究センターが設置されました。この教育研究センターには調剤室・無菌製剤室・医薬品情報室・TDM/製剤試験室などの最新鋭の施設があり、私が学生の頃と比較すれば薬剤師業務に関する講義・実習内容もかなり充実したようです。本年より6年制の薬学部新教育体制がスタートしましたが、私の場合は10年に満たない期間で大学から病院、病院から大学へと環境が変わった点を十分に活かし、医療現場の経験を通じて各先生方とともに学生教育に携わってまいりたいと思います。さらに研究の面でも、両者の経験を生かした内容を模索し、医療機関と協力しながら行ってまいります。

医療現場で新しい知識を有する薬剤師でも、大学に在籍すると早かれ遅かれ現場特有の知識や情報に精通するのが難しくなりますが、近隣病院での研修や地域の病院

薬剤師会・薬剤師会における研修会への出席などを通じて、常に臨床を意識した立場で教育・研究活動を行いた

いと考えておりますので、御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



薬学部新任教員として

上村 直樹（23期）

理科大薬学部には実践社会薬学という他に類を見ないユニークな講義が存在します。学生にとって目標を提示され、モチベーションを初めて刺激される講義であります。平成8年に薬学部同窓会が大学と話し合い、単位を認定された正式な講義として始められました。薬局薬剤師を志す学生が少ない理科大にとって、私は数少ない薬局薬剤師ということもあり、母校の教壇に呼ばれたのでした。今考えると、世間からは研究指向と言われる母校ですが、医療薬学の最先端を走っていたのかもしれません。以後平成11年から非常勤講師として調剤実習や実習

前講義などを受け持ち、薬局薬剤師への進路を切り開くお手伝いをさせていただきました。

平成18年からは6年制がスタートして、どの大学にも実務家教員が必要になったことから、みなし専任教員としてお世話になることになりました。薬局を経営しながら教員もやるという、いわゆる二足の草鞋を履くことになりました。しかし医学部では以前から午前中は外来診察をしていた医師が、午後は学部で教鞭を執るのが当たり前です。薬学部もやっとそういう時代になったということ大変嬉しく感じています。これからは、いままでは以上に薬剤師の魅力をアピールして、学生のモチベーションアップにつなげ、倫理観と責任感を持った研究心旺盛な薬剤師を養成したいと考えております。どうぞよろしくお願いします。



薬学部新任実務教員となって

小茂田 昌代（15期）

4月より、薬学部6年制に伴い実務教員として講義や実習を担当することになりました。1年生教員として、一步を踏み出したばかりですが、多くの恩師に温かく迎えていただき感謝致しております。週の半分は今までどおり医療法人社団聖秀会柏光陽病院薬剤科に勤務致しております。思えば、当院の薬剤科は18年で3倍以上の人員となりましたが、それでも足りないほど病院薬剤師の業務は大変革を遂げました。現在の当院は、入院患者さんには担当医師、担当看護師がいるのと同じように、すべての患者さんに担当薬剤師がいます。正直言って、わ

が子の出産のため、大好きであった研究職を断念し、仕方なく勤めた近隣の当院でしたが、現在は臨床薬剤師の業務に大変なやりがいを感じています。そして、そのやりがいを学生に伝えていきたいと実務教員の大役に挑戦することに致しました。

薬学部6年制がついにスタートし、医療の担い手として、チーム医療における薬剤師への期待は大きく膨らみつつあります。ある新聞記者が「病院の安全レベルは、薬剤師の業務内容で分かる」と言われたように、報道される薬の事故の多くは薬剤師がもっと関与していれば防げたと思われます。医療チームの一員として、病棟で医師とともに薬物治療を実践できる知識と技能と倫理観を兼ね備えた“さすが理科大卒”と評されるような臨床薬剤師の育成に全力を注ぐ所存です。今後とも、ご支援ご指導よろしくお願い致します。



第5期生同期会報告

山川 洋志

平成17年10月10日グランドパレスにおいて、第5期生同期会が開催されました。

いつもの如く、井上君からの電話で、還暦の年に同窓会をという前回の同期会の時の約束を果たすことになった。とりあえず、飯田橋の駅ビルに前回幹事数名が集まって会場と日時を決めた後は井上君に一任した。我々の年代になると、両親の介護、孫の世話などで時間があるようでない仲間が多く何人集まるか不安であったが、蓋を開けてみると、北は岩手から南は福岡まで35名の仲間が参加した。

桑原君の開会の挨拶に始まり、渡部君の乾杯の後、原先生から薬学部の現状報告が行われた。その後は、直ぐに、昭和30年代の青春時代にフラッシュバックした。恒例のふるさと土産の抽選会と各自の近況報告があり、あっというまの2時間が過ぎ、しゃべり足りない仲間は2次会、3次会とその日ばかりは40年前に戻っていた。

今回の同期会開催に際し、薬学部同窓会の上村副会長がご多忙のなか同窓会の補助金を会場まで届けていただいたことに感謝いたします。



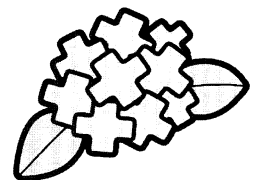
2005年度広島地区交流会にて再会

幹事会での同窓会活性化への議論を経て、機会があれば学会の開催に合わせて交流会を開催することになった。その第1回の企画が、平成17年10月9日(日)～10日(月・祭日)に広島県にて開催された第38回日本薬剤師会学術大会を利用したこの交流会である。昨年の「ふなかわら」に申込み締切を8月末として案内を掲載したが、学術大会の懇親会と同じ日(10月9日)に開催しなくてはならなかったために開催時間が午後8時と遅く、もしくは参加費が高かったためか(8,000円)、9月半ばを過ぎても申込みが少なく担当としては大変心配したが、直前になって申込みが続いた。

JR広島駅新幹線口真ん前のホテルグランヴィア広島の会場に、私は移動途中で遭遇した卒業生を無理矢理引き連れて到着した。集まった参加者総数は36名、3期の厚井一恵さんから40期の澤井美里さんまで33名、そして大会に参加していた砂金、太田、鈴木(潤)の3先生も出席して下さった。楽しい話があちこちで進められたが、途中参加を説得するために立ち寄った店で飲んだお酒が効いたのか、私は司会という大役を立派にはこなせ

ず、参加者にはご迷惑をかけてしまった。学術大会での発表準備でバタバタし、カメラを準備するのも忘れてしまった。これも次への教訓である。しかし、2004年青森の学術大会において30年ぶりで再会した12期の茶山彰雄氏が参加してくれたのが大変にうれしかった。薬剤師会の役員である彼とは青森ではあまり話ができず、広島でも私が司会であったために話ができなかったが、次にお会いするときにまた楽しみである。

この紙面をお借りして参加して下さった方へ、お礼申し上げたい。ありがとうございました。(T.I.)



ご報告します。晴れて卒業しました。

卒業祝賀パーティー実行委員会 戸口 綾香

月日がたつのも早く、我々177名(YE-88, YS-89)も本年3月に無事卒業することが出来ました。天気にも恵まれた3月20日の昼過ぎ、九段下の武道館、開場前から周囲はスーツや袴の晴れ姿であふれかえり、皆これから行われようとしている式に向け、緊張しておりました。式場内にて決められた区画にいつになく背筋を伸ばして座り、最後の校歌斉唱は電光掲示板を見ながらの大合唱でした。終了直後には、皆、神楽坂にある理学部・工学部校舎へ移動し、8号館の古い教室にて、薬学科、製薬学科別々に卒業証書の授与が行われました。最初に学科首席へのトロフィー授与、続いて全員への証書の授与。次々と名前が呼ばれ、証書が渡され、ようやく卒業したのだと実感し思わず涙する子もいました。授与式が終わり、8号館の前へ出てみると他学部の新卒生などで混雑しており、卒業という別れを惜しむようにあちらこちらで大記念撮影大会が行われていました。

我々卒業祝賀パーティー実行委員は、証書を受け取っ



てすぐパーティーの準備に取り掛かるため、大急ぎで開場である大手町のパレスホテルへ移動しました。卒業祝賀パーティー実行委員のメンバーは本年度の新卒生より公募にて募り集まった学生により構成され、秋頃から企画をはじめました。パーティーの流れやイベントの準備、買出し、学生や先生の欠席の取りまとめ、ホテルとの打ち合わせ等々、委員会のメンバーそれぞれが研究の合間を縫って担当し準備しました。

18:30開始のパーティーは、学部長の武田先生、学年首席のYE赤沢君による挨拶、そして同窓会の石井甲一会長の乾杯によってはじまりました。途中イベントとしてビンゴをはさみ、定年される原博先生、転出された袴塚先生より一言頂き、先生方への花束贈呈が行われ、新卒生一同が花道を作り、先生方を送り出してパーティーが終わりました。

就職するもの、大学院へ進むものなど皆これからバラバラになってしまい、なかなか別れを言い切れずに別れた子もいます。ですが、同窓生としてこれからも縁があり続け、頑張っていきたいと思います。先輩方のご指導ご鞭撻をお願い致します。

今年卒業した皆様へ

以下のURLに卒業祝賀パーティーの会計報告を掲載致しました。ご確認下さい。

http://www.geocities.jp/lover_soul1982/kaikei.html

12期同期会だより

犬飼 陽子 (12期)



“同期会だより”と言いますと『こんなことやりました。』と紹介されるものですが、今号のたよりは『これからやります。』のご案内をさせていただきます。毎年の総会・講演会の担当は同期毎の輪番制のため、平成18年度は12期が担当となりました。講演会終了後に12期の同期会を下記のように開催いたします。ぜひ、多くの方にお会いできることを楽しみにしています。

担当になったおかげで幹事会に参加させて頂き、広々とした野田キャンパス、懐かしい神楽坂キャンパスを訪問することができました。4月の幹事会に参加した時に数時間、学生時代に良く歩いた神楽坂を散策しました。30年たったことが嘘のように新しいものと古いものと調和がとれていました。全国1000店の不二家でも神楽坂に

しかないペコちゃん焼きを買うお客様の列前よりスタート、毘沙門天の市の後を過ぎ、赤城神社までと懐かしい時を過ごさせて頂きました。皆様もぜひ神楽坂にお出かけください。

《ご案内の内容》

12期の同期会の開催のお知らせ

日時：2006年7月22日(土) PM 5:30~PM 7:30

場所：インテリジェントロビー ルコ(総会会場)

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F

TEL: 03-3266-9311

連絡先: TEL&FAX 029-841-5153 (12期幹事 金澤)

E-mail: qqe824d9@bridge.ocn.ne.jp

平成17年度同窓会通常総会および講演会について

平成17年7月23日(土)の午後、東京理科大学神楽坂11号館1101教室において、黒崎浩巳会長の挨拶ののち、磯部総一郎氏(22期)を議長として通常総会が開催されました。以下に、その概要を記載致します。

- ・平成16年度事業報告、平成17年度事業計画案が承認されました。平成17年度は同窓会名簿の作成年であります。
- ・平成16年度決算に関して岡宮智子氏(11期)より説明され、草本記子氏(19期)の監査報告の後、承認され、また平成17年度予算案も承認されました。
- ・同窓会会則の一部が改定されました。第3章第7条の役員の種類に会計担当幹事が加わり、それにつれて第8条の役員の職務が修正されました。また、同窓会費を卒業時に納入しやすくするために、第5章第20条の会費の項に卒業前、大学院修了前の会費の一括納入に関して特典を設けました。これに関しては、

会費納入状況を参照してください。

平成17年度改定における追加事項

第3章 役員

(役員の種類)……(第7条に会計担当幹事を追加)

第7条 本会には次の役員をおく

会計担当幹事 常任幹事会において正会員の中から推薦し、総会の承認を得るものとする。

(役員の職務)……(第8条に第6項、7項を追加)

第8条 各役員の会務は次の通りとする。

6. 会計担当幹事は本会の会計を統轄し、管理する。
7. 監査役は常任幹事会に出席し、会計その他を監査する。

第5章 庶務及び会計

(会 費)………(第20条に第2項を追加)

2004年度会計報告

東京理科大学薬学部同窓会
2004年4月1日～2005年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	786,000	人件費	186,400
預金(普通、定期)利息	608,487	電話代	57,300
懇親会参加費	165,000	諸案内状印刷発送費	683,155
資産より繰り入れ	315,498	郵便代	13,910
		実践社会薬学打ち上げ援助	100,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		同期会協賛金	30,000
		文具・事務経費	42,320
		記念植樹	100,000
		ホームページ	322,750
		雑費	299,150
合計	1,874,985	合計	1,874,985

前年度繰越金 20,278,201
今年度残高 -315,498
次年度へ繰越 19,962,703

資産内訳
定期預金(UFJ) 10,000,000
郵便局振替口座 666,040
普通預貯金 8,617,972
現金 678,691
計 19,962,703

以上の通り会計報告いたします
平成17年 7月 8日

会計 岡宮 智子

監査報告

会計報告の各事項を調査し、その収支ともに正確であることを認めます。

平成17年 7月13日

会計監査 高井 幸恵
草本 記子

2005年度予算

東京理科大学薬学部同窓会

2005年4月1日～2006年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	1,300,000	人件費(名簿関係分を含む)	420,000
名簿購入代	1,800,000	電話代(KDDI)	60,000
預金(普通、定期)利息	60,000	諸案内状印刷発送費(「ふなかわら」発送代を含む)	900,000
資産より繰り入れ	1,160,000	郵便代(切手、はがき、後納、名簿関係受取人払い)	400,000
		講演会謝金	50,000
		講演会経費(交通費等)	30,000
		実践社会薬学講師謝礼	60,000
		実践社会薬学打ち上げ援助	150,000
		卒業謝恩会寄付	50,000
		交際費	10,000
		同期会協賛金(2件)	60,000
		文具・事務経費(個人情報保護法対応分を含む)	150,000
		ホームページ設定・維持費	300,000
		2005年度版名簿作成費	1,580,000
		予備費	100,000
合計	4,320,000	合計	4,320,000

平成17年度予算案

支出の部	
内訳	金額
人件費(名簿関係分を含む)	420,000
電話代(KDDI)	60,000
諸案内状印刷発送費(「ふなかわら」発送代を含む)	900,000
郵便代(切手、はがき、後納、名簿関係受取人払い)	400,000
講演会謝金	50,000
講演会経費(交通費等)	30,000
実践社会薬学講師謝礼	60,000
実践社会薬学打ち上げ援助	150,000
卒業謝恩会寄付	50,000
交際費	10,000
同期会協賛金(2件)	60,000
文具・事務経費(個人情報保護法対応分を含む)	150,000
ホームページ設定・維持費	300,000
2005年度版名簿作成費	1,580,000
予備費	100,000
合計	4,320,000

収入の部	
内訳	金額
同窓会費	1,300,000
名簿購入代	1,800,000
預金利息(普通、定期)	600,000
資産より繰り入れ	620,000
合計	4,320,000

2005年度名簿作成予算案

支出	金額
CD-ROM作成費 2,000枚 (内訳) 仕様: CD-ROM2000枚 (盤面2色、フロント・バックカバーなし) データベース構築 データベース設計・構築 データ加工・取り込み デザイン・レイアウト CD-ROMプレス コピー防止(プロテクト)	1,570,800
小計	1,385,000
営業経費(8%)	111,000
合計	1,496,000
消費税	74,800
総合計	1,570,800
収入 名簿購入代 (3,000円×600名)	1,800,000

第20条の2 卒業前（大学院生も含む）の会費の一括納入に関しては以下のように扱う。

10年会費 18,000円 終身会費 30,000円

- ・同窓会活動に功績のあった小原 侃 氏（1期）、山口 稽子氏（2期）のお二人に顧問になって頂いた。
- ・新たな役員として、会長に石井 甲一（11期）が、副会長に武尾 勝司（9期）、安達 順一（11期）、安藤 秀一（22期）、上村 直樹（23期）、会計担当幹事に岡宮 智子（11期）、監査役に草本 記子（19期）、高井 幸恵（22期）の各氏が推薦され、承認された。
- ・石井新会長が座長となり、下記2題の講演が行われた。
参加者は50名（学外から6名の参加を含む）。なお、

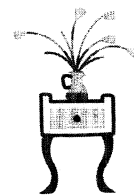
今回の講演会は、日本薬剤師研修センターの研修認定薬剤師制度の対象であった。

①「東京理科大学薬学部の6年制への対応について」

薬学部長 武田 健 教授

②「性差医療と薬物代謝」

千葉大学 上野 光一 教授



同窓会は同窓生の会費で運営されています

薬学部同窓生の皆様、本年も会費納入、寄付金納入、本当にありがとうございました。同窓生幹事一同心からお礼申し上げます。特に、平成18年3月ご卒業、ご修了の多くの新入同窓生の皆様から本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを、本当にうれしく思っております。さらに、名簿申込み時において皆様から多大な寄付をいただきましたことを感謝いたします。

皆様ご存知とおり、東京理科大学薬学部同窓会は同窓生の会費で運営されています。また、同窓会会則では〔規約の改定により〕、薬学部の卒業生はすべて会員であります。そして、同窓会の運営は会費納入者である正会員の真心により支えられております。我々、幹事一同は、皆様の真心を礎にボランティアリズムを燃え上がらせて、本同窓会の運営に努力してまいります。今後ともご支援、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。また、重ねて会費納入、寄付金納入、ありがとうございました。 幹事一同（S.A.記）

平成18年度会費納入のお願い

平成17年度に引き続き、平成18年度会費納入をお願いする次第です。平成18年度会費が未納の方は、ぜひ年会

費または終身会費をお納めくださいますよう、お願い申し上げます。

会員の会費納入状況は、宛名下部に記載してありますのでご確認ください。

（終身・会費納入済み）

終身にわたり会費を納入済みの方

（H18・会費納入済み）

平成18年度年会費 納入済みの方

（H18・会費未納）

平成18年度年会費 未納の方

なお、会費の納入の際には、同封の郵便振替用紙をご利用下さい。会費は会則改定により以下のように変更されております。また、家族に会員がいる場合は、「会員の一親等親族および会員の配偶者の会費は全て1/2とする。」との特例もありますのでご注意ください。

ご寄付も受け付けておりますのでよろしくお願い申し上げます。

年会費 2,000円（何年分でも納入できます。）

終身会費 50,000円

平成17年度会費納入額詳細（平成18年4月30日現在）

	終身会費納入		年会費納入		寄付金		合計金額
	金額	人数	金額	人数	金額	人数	
平成18年卒業・修了者	2,056,000	69	122,000	7	20,000	1	2,198,000
既卒者	575,000	12	782,000	150	105,000	9	1,462,000
合計	2,631,000	81	904,000	157	125,000	10	3,660,000

氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛

記入 年 月 日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ			旧姓	フリガナ		
	漢字	姓	名		漢字	姓	名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科） 期 年卒 (卒・研究室)			大学院（修士・博士） 年修了 (院・研究室)			
住所	旧住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	現住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL. FAX.						
Eメールアドレス @							
勤務先	フリガナ	名称					
	所在地	(〒 -) 都 道 府 県					
	TEL. FAX.						
Eメールアドレス @							
その他 連絡事項							

切り取り線

個人情報は 東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-3656

E-mail : jim@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

行事に関するご案内など掲載しておりますので是非アクセスしてみてください。

平成17年度 会費・寄付金納入の皆様（敬称略）

平成17年4月1日～平成18年4月4日

【寄付】	黒崎 浩己（1）	三谷 綏子（7）	山田 陽子（14）	堀口 真吾（28）	中川 昭（院）	中曾根 彩子（43）
	谷 憲昭（2）	新井 朝子（7）	小野 安美（14）	枝川 義邦（30）		中村 貴紀（43）
【終身会費・年会費】	斉藤 和子（4）	白石 和子（7）	上田 光一（14）	小田 瑞穂（31）	【終身会費・10年会費】	坪井 麗奈（43）
	江竜 和子（6）	碓井 寛（9）	新井 みどり（14）	長沼 未加（31）		天宮 美樹（43）
（既卒者）	及部 鈴美（10）	岸 佳孝（9）	長尾 泰子（14）	磯部 喜三郎（32）	（平成18年3月卒業者）	田中 義章（43）
	富士谷 成子（11）	成田 満代（9）	百瀬 陽子（14）	大島 亜紀子（32）		藤本 悠（43）
	館盛 勝志（13）	畠山 富美子（9）	吉村 かおる（15）	野村 香織（34）		徳田 洋子（43）
	小池 早由里（16）	平田 恵子（9）	高橋 正史（15）	黒沢 和夫（35）		板倉 裕子（43）
	河部 秀男（16）	眞嶋 美抄（9）	大高 基子（15）	内田 達也（35）		内田 あや（43）
	奥村 弘樹（27）	及部 正章（10）	四手井 景子（16）	楠 雅子（35）		板垣 圭祐（43）
	柳久保 由美（43）	及部 鈴美（10）	小池 勝夫（16）	峯村 ゆかり（35）		飯田 淳子（43）
		松浦 文昭（10）	小池 早由里（16）	橋本 崇（36）		富山 裕美子（43）
		谷内 久美子（10）	藤澤 敏江（16）	鈴木 利宙（36）		平島 麗子（43）
		中島 敏夫（10）	冨塚 朋子（16）	小野 宏司（37）		北井 英里子（43）
		下 武男（11）	塩入 淳一（17）	小野 愛子（37）		本間 明子（43）
		岸村 早苗（11）	佐久間 悟（17）	松井 信智（37）		柳 尚仁（43）
		佐藤 節子（11）	山崎 香織（17）	飯盛 裕香（37）		柳久保 由美（43）
		山内 英憲（11）	川原 真理子（17）	百田 亮一（37）		林 洋平（43）
		星野 智子（11）	仲村 直子（17）	藪崎 栄（38）		櫻木 美保子（43）
		泉 加代子（11）	桃川 聖司（17）	垣内 拓也（39）		横田 直之（43）
		中富 一郎（11）	関 裕史（18）	吉田 航介（39）	【終身会費・10年会費】	
		田中 節子（11）	田中 智子（18）	前田 幹広（39）		（平成18年3月院修了者）
		渡辺 良子（11）	安福 一恵（19）	谷口 紗弥子（39）		川上 隆茂（38）
		二宮 理恵子（11）	加藤 淳（19）	尾関 理恵（39）		加藤 美帆（41）
		並木 隆之（11）	鮎沢 純子（20）	松尾 香織（40）		熊本 隆之（41）
		鈴木 湛山（11）	安部 葉子（20）	大井 恒宏（40）		今寺 祐美子（41）
		久我 洋子（12）	浅子 修（20）	大久保 有香（40）		山本 佳代（41）
		犬飼 陽子（12）	日比野 史子（20）	加藤 美帆（41）		若沢 武（41）
		後藤 和子（12）	吉岡 茂子（21）	砂倉 恵果（41）		色川 正憲（41）
		高山 恭子（12）	中川 智栄子（21）	山本 佳代（41）		大野 雄成（41）
		根岸 房江（12）	藤原 良（21）	水村 育絵（41）		谷光 かほり（41）
		山口 正（12）	三浦 真（22）	水谷 奈緒子（41）		谷口 いつ子（41）
		池田 まき子（12）	勝木 美奈（22）	谷光 かほり（41）		竹澤 彩（41）
		中野 志づ佳（12）	石井 恵美（22）	服部 彩（41）		長田 一郎（41）
		館盛 勝志（13）	秋山 仁子（23）	米山 敬子（41）		田中 優紀（41）
		宮下 忠也（13）	村田 秀博（24）	柳父 香澄（41）		平林 英樹（41）
		山本 正雅（13）	戸谷 英治（25）	高梨 麻美（41）		齊藤 史代（41）
		秋元 和子（13）	新井 千穂（26）	向井 雅子（42）		高橋 孝一（41）
		松本 五十鈴（13）	東出 幸乃（26）	小原 珠英（42）		長谷川 大樹（院）
		須加 寿美子（13）	奥村 弘樹（27）	説田 真子（42）		
		池田 美津代（13）	堀米 孝知（27）	竹中 理紗（42）		
		藤田 育子（13）	漆原 良一（28）	小森 幸道（院）		
		堀江 淳子（13）	峯尾 朝海（28）	清水 恵一郎（院）		

訃 報（平成18年5月23日現在）

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略）

「ふなかわら」18号では平成14年6月～18年5月に亡くなられた方で、ご連絡のあった方をお載せしています。ご家族のご意向によりお知らせしない場合もございますのでご了承下さい。

氏 名	旧姓	期	卒業年	ご逝去年月日	氏 名	旧姓	期	卒業年	ご逝去年月日
中井 正 教授				平成17年1月	片岡 俊昭		6	1969（昭和44年）	平成16年1月
窪田 幸夫		1	1964（昭和39年）	平成16年9月	栗山 豊光		6	1969（昭和44年）	平成15年2月
瀬川 幸子	（田辺）	1	1964（昭和39年）	平成15年3月	住田 和男		7	1970（昭和45年）	
光井 英基		1	1964（昭和39年）	平成17年7月	渡辺 光子		12	1975（昭和50年）	平成17年4月
長谷川雄一郎		2	1965（昭和40年）	平成18年2月	飛塚 滋幸	（太田）	16	1979（昭和54年）	平成15年9月
桜井 信子	（山本）	2	1965（昭和40年）	平成16年12月	川本智枝子	（登坂）	21	1984（昭和59年）	平成14年7月
稲葉 隆一		4	1967（昭和42年）		飯原 万紀		43	2006（平成18年）	平成18年3月
田中 弘子	（米村）	4	1967（昭和42年）						
木村 真		5	1968（昭和43年）						
佐藤 保子		5	1968（昭和43年）	平成17年5月					
庄野 嘉平		5	1968（昭和43年）	平成15年2月					
宮里 敏正		5	1968（昭和43年）						





【事務局・連絡先】

東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-3656

E-mail : jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

行事に関するご案内など掲載しておりますので是非アクセスしてみてください。

編集後記

今回の「ふなかわら」より、表紙の写真を換え、サイズもA4版と大きくすることとしました。出来栄はいかがでしょう。

同窓会活動の一つ、薬学部同窓生が講師として在学生に講義をする「実践社会薬学講座」も11年目を迎え、すっかり薬学部の講座として定着してきました。なお、昨年は名簿作成の年にあたり、皆様には、いろいろとご協力いただきありがとうございました。CD-ROM版での対応は初めてですが、必要な時に簡単に検索できるという長所がありますので、有効に活用していただけるものと思います。

また、今年から薬学部6年制がスタートし、薬学部のあり方が大きく変わろうとしています。今後は、これまで以上に薬学部同窓会の役割が重要になってきます。より多くの方々の同窓会への参加とご協力をお願いいたします。

2006年度 幹事一覧

小原	侃	(1)
黒崎	浩己	(1)
山口	堅志郎	(1)
山口	穂子	(2)
鈴木	政雄	(3)
中村	洋司	(3)
池田	幸雄	(4)
宇留野	強	(4)
柏木	敬子	(4)
山川	洋志	(5)
湯田	康勝	(6)
植木	清一郎	(6)
藤井	幸子	(6)
石井	賢二	(7)
寺山	博行	(7)
松岡	隆	(8)
奥村	成太	(8)
澤地	孝	(9)
武尾	勝司	(9)
中島	敏夫	(10)
原	しげ子	(10)
石井	啓子	(10)
安達	順一	(11)
石井	甲一	(11)
小暮	渉	(11)
岡宮	智子	(11)
富秋	英志	(11)
向井	呈一	(11)
新井	準子	(12)
金澤	幸江	(12)
犬飼	陽子	(12)
濱野	朋子	(13)
波田野	佐和子	(13)
田村	哲彦	(14)
菅原	伸治	(15)
遠藤	健治	(16)
関口	真紀子	(16)
小池	勝夫	(16)
田畑	新	(16)
今	和枝	(16)
渡部	敏行	(16)
青山	隆夫	(17)
渡辺	宏二	(18)
小松	俊哉	(20)
飯野	直子	(21)
吉田	雅人	(21)
安藤	秀一	(22)
磯部	総一郎	(22)
小川	政彦	(22)
永井	健二	(22)
高井	幸恵	(22)
和田	和裕	(22)
原田	みどり	(22)
北嶋	晶子	(23)
上村	直樹	(23)
伊集院	一成	(25)
小林	寧	(26)
関根	靖之	(26)
前田	真	(27)
大瀧	充	(29)
神谷	貞浩	(29)
内村	兼一	(30)
高橋	未明	(31)
佐々木	正大	(32)
野村	香織	(34)
浅井	将	(37)
大久保	有香	(40)
澤井	美里	(40)
石坂	隆史	(院)